

ふるさと応援団員からの便り

## 中村四代領主兼定と戸島



千葉 城圓

宇和島市戸島  
昭和10年生まれ

戸島の人々は、400年過ぎた今でも、一條兼定公のことを親しみと尊敬の念を込めて、「二条さま」、「宮さま」と呼び、その墓所を毎朝お参りし、お水、お花、お香をお供えています。戸島の人々の心の温かさやさしさを感じ、すばらしいことと思っています。

墓所のお堂は、戸島庄屋の末裔にあたる田中栄吉氏(カソリック高松教区長)が、昭和48年(1973年)11月、建立されたものです。建立の日、三人の神父さんによる賛美歌で始まり、田中司教による説教、ラテン語による献堂の祈りが捧げられました。参列者の中には『かげろうの館』の著者田岡典夫氏、宇和海村長、高知・香川のカソリック信者や島民70名ほどがおられました。

墓所のある龍集寺には、「土佐一家五代像」という掛け軸も寺宝として残されています。

中村の皆様は、ご存知のこととは思いますが、その一條兼定は、天正2

年(1574年)長曾我部元親に中村を追放され、大分のキリシタン大名大友宗麟を頼って九州に逃れました。その後、大友氏の支援を受け、四国、南伊予の豪族、法華津領主清家氏、島津領主越智氏、御荘領主観修寺氏の協力を得て、再興を期して旗揚げしましたが、渡川の戦いで大敗し、やつとの思いで、漁船で逃れ、戸島に落ちのびました。そして、天正13年(1585年)、42歳で病没し、戸島に葬られました。いつ法名がつけられたのかは判りませんが、「天真院殿自得宗性家門大居士」という仏式の法名がついています。

戸島出身で、宇和島市役所職員であった瀬川功氏が研究され、著された『戸島と一條兼定』の労作も郷土史家の皆様には重宝がられています。愚僧は15年前、この龍集寺に来て、兼定のことを初めて知りましたが、この瀬川氏の著書で勉強し、詳しく知ることができました。

龍集寺では兼定の命日にあたる7月1日には、仏式ではありますが、年忌法要を行っています。ただ、兼定本人はクリスチャンでありましたから、仏式で法要されることをよろこんでいないのかも知れませんが、本年は、その428年忌でありました。島の人々30名あまりが参列され、悲運の戦国大名兼定を偲んで、念仏をお唱えしました。再来年、平成26年

は430年忌に当たりますから、記念の法要を盛大に奉修したいと思っています。できれば、その際には、土佐中村の方々もお招きしたいものだと考えています。

今年は一條神社の150周年記念のお祭りが盛大に開催されるのと、おめでとうございませう。一條兼定によるご縁で、中村と僻地である宇和島戸島との良縁を生かすためにも、11月には、ぜひお参りしたいと思っております。

蛇足ながら、拙いものですが、今までに兼定を詠んだ愚僧の俳句を掲げます。

兼定の墓を護りて秋桜

夕焼けやステンドグラス日に映えて

戦国の領主の墓や葉鶏頭

(龍集寺住職)



一條兼定公墓所